

スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究・共同利用型

報告書

ブフ アレクサンダー

筑波大学・人文社会科学研究所・准教授

日ロ関係におけるナショナル・アイデンティティという広範な研究企画の一環として、昨年度において二つの研究課題に携わった。一つは、ロシア革命後におけるロシアのナショナル・アイデンティティと変容とロシアにおける東洋観及び日本観との相互作用であり、一つは（初期の）元島民による北方領土返還運動とアイヌ権利運動の比較である。

ロシア革命とロシアのナショナリズム、北方領土返還運動及びアイヌの権利運動というテーマに関する一次資料と先行研究は関東にある大学付属図書館等では殆ど見当たらず、これらのテーマに関する先行研究の整理と一次資料の収集を行うために、北海道大学・スラブ研究センターでの滞在は不可欠であった。このように、共同利用型を利用し、二度に亘って、札幌を訪れた。一回目（12月）においては、スラブ研究センターの図書室及び北海道大学付属図書館（主にスラブ・コレクション）にあるロシアのナショナリズム、レーニンとスターリンの民族という概念の認識と政策、ナショナル・ボルシェビズムという思想等に関する資料を探し、複写した。この資料を分析し、学術論にまとめ、Slavic Review 誌に投稿した。現段階において、査読の結果をまっている。二回目（3月）においては、北海道大学付属図書館・北方資料室及び道立図書館にあるアイヌ権利運動及び元島民による北方領土返還運動に関する多数の一次資料をみつけ、複写した。今後、この資料を分析し、市民社会論という視座から、北方領土返還運動とアイヌ権利運動の思想的背景を解明する。今研究の成果を学術論文にまとめ、アジア研究関連の学術誌に投稿する予定である。